



SENDAI
UNIVERSITY

50周年記念シンボルマーク

SPORTS FOR ALL ～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

Monthly Report



SENDAI UNIV.

PUBLIC RELATIONS

Vol.132 / 2017 APR.

(月1回発行)

670名の新入生を迎え入学式を挙行



入学生を代表して阿部学長に宣誓する加藤彩音さん

4月5日（水）10時より、本学第五体育館を会場に「平成29年度仙台大学体育学部入学式・大学院入学式」が挙行され、体育学部学生649名、大学院生21名、合計670名が本学への入学を許可されました。学長告辞で阿部芳吉学長は「ご入学誠におめでとうございます。仙台大学には、昨年の全日本スケルトン大会で見事優勝した宮嶋選手や、ボートのエイトで優勝したクルーなど2020年東京五輪までの成果が非常に楽しみな学生達がたくさんいます。野球、サッカー、バスケットなどに一生懸命打ち込みながら、先輩たちは人間性を磨いています。新入生のみなさんは、胸に秘める期待を自分の力で大きく育て仙台大学でぜひ、豊かな大学生活をおくってください。」と新入生を激励しました。

理事長挨拶では朴澤泰治理事長・学事顧問が「同一世代で実りある交流を実現し、仙台大学で豊かな大学生活を実現してほしいと思います。1967年の開学から今年で開学50年。『大学づくりを共に』をキーワードに、開学100年という大きな節目に向けて一緒に仙台大学を創っていきましょう。」と挨拶されました。

また、入学生宣誓では、体育学科に入学した加藤彩音（かとう・さやね）さん（秋田県・秋田北高校出身）が「これからの時代の担い手となるよう、努力して参ります。また、私たちが4年生の時には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。体育大学の一員として何らかの形で参画できるよう、学びを通して自己研鑽に励んで参ります。」と力強く宣誓しました。

入学式後には学科別懇談会で担当教員の紹介や学科の取り組みなども紹介され、入学生は一様に、今後4年間の大学生活に胸を膨らませている様子でした。

新入生は翌6日（木）から2日間のオリエンテーションを経て、本格的な大学生活をスタートさせました。

〈目 次〉

670名の新入生を迎え入学式を挙行	1
大好評！東北六県弁当 大学院新入生歓迎会	2
パラオ共和国政府関係者来学	3
開学50周年記念行事① イタリア柔道チームAISEが来学	4
フットサル部 小野寺那央選手 ヴォスクオーレ仙台とプロ契約	5
職業実践力育成プログラム 開講式	
運動栄養サポーター認定証授与式 体育施設管理士認定証授与式	6
鈴木省三統括副学長が 仙台東ロータリークラブで講演	7
仙台六大学野球リーグ戦 初優勝の盾が36年ぶりに仙台大へ	8
留学生歓迎お花見会を開催	
香港野球代表チームにAT部トレー ナーが帯同	9
親睦会歓送迎会開催 他	10
新任教職員のご紹介	11-13

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp



大好評！新入生歓迎 東北六県弁当

4月8日に举行された入学式で、新入生や保護者、教職員へ毎年恒例となっているオリジナル弁当の配布が今年も行われました。

今年のお弁当は「東北六県弁当」と名付けられ、メニュー作成の陰には運動栄養学科3年の後藤樹生さん（青森県・東奥義塾高校出身）と神恭平さん（青森県・弘前南高校卒）2名の人の知れずの苦勞がありました。

「新入生やその保護者の皆さんに東北六県の名物料理を食べてもらいたい。」という思いでレシピ考案がスタート。誰でも知っている名物料理だけではなく、いわゆるB級グルメや作り方に特徴がある料理も取り入れました。

苦勞した点は材料費を予算内に収まるレシピを考えることやお弁当の色合い、栄養バランスを考えることだったといいます。

特に色合いを考える際には、メニューの中にある「揚げ出し豆腐山形だしかけ」の調味料をめんつゆから白醤油に代えることで、全体的に茶色のメニューが多いお弁当に明るさを添える工夫もしたそうです。

また、お弁当と一緒に配布されたリーフレットの作成時には、運動栄養学科の講義の中で学んだ知識や、論文なども参考にしながら一つ一つの料理についての特徴や栄養価などが分かりやすく紹介されています。

今回のオリジナル弁当の作成に携わったことについて後藤さんは「食べていただいた多くの皆さんからお褒めの言葉をもらえてうれしかったです。」と話してくれました。また、神さんも「おいしかったと多くの人に声をかけてもらいました。今回の経験は今後、給食実習などでメニューを考えるときに役立つと思います。」と充実した表情で語ってくれました。



お弁当のメニューを考案した神さん（左）と後藤さん

大学院新入生歓迎会を開催

4月5日（水）に举行された入学式終了後、学生食堂なちゅらを会場に「平成29年度仙台大学大学院新入生歓迎会」が開催され、大学院生や教職員約50名が参加しました。

歓迎会で阿部芳吉学長は「常識にとらわれることなく、学部生活の4年間で得た見識を基に、思考の回線を増やしながら研究に励み豊かな大学院生活を送ってください。」と挨拶されました。

会の中では新入生がそれぞれ研究したいテーマや大学院生活にかかる意気込み等をお話の他、在学生の紹介、大学院担当教員の紹介なども行われ、終始和やかな雰囲気でした。

この歓迎会は毎年開催されており、大学院生同士や教職員との懇親の場ともなっています。今年度入学した新入生だけでなく、在学生も含めて、素晴らしい研究がなされることでしょう。



参加者での記念写真

パラオ共和国政府関係者が来学

ー東京オリンピック・パラリンピック事前合宿地視察ー

4月20日（木）、パラオ共和国の社会文化大臣 兼 オリンピック委員会事務局長のバクライ・テニメルさんはじめパラオ政府関係者5名と、パラオ共和国のホストタウン※1登録をした蔵王町の村上英人町長はじめ蔵王町関係者5名の計10名が仙台大学を訪問されました。

一行は2020東京オリパラ事前合宿時の練習施設を探しており、今回の訪日で、角田市、白石市、そして仙台大学を視察し、今後、練習施設の絞り込みを行う予定です。あいにく今回の滞在期間が極めて短く、本学の滞在時間も2時間弱のため、見学いただく施設も、C棟3階の人工気象室と低酸素環境室、第3体育館のトレーニングセンター及び柔道場、第4体育館のアスレティックトレーニングルームのみの限定的な見学ツアーとなりましたが、整った本学施設をご見学頂き、有望な候補地の一つになったものと思います。



事前合宿の実現に向けて本学を訪問したパラオ共和国関係者ら

※1：ホストタウンとは。

2020東京オリパラに向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各地に広げるもの。オリンピックとの交流を通じてスポーツのすばらしさを学ぶ、文化交流を通じ相手国の理解と日本のすばらしさを伝える、等を目的としている。パラオは、第1次世界大戦後、日本の委任統治領となり、多くの日本人が移住した。第2次世界大戦後は、パラオで終戦を迎えた方々が蔵王町遠刈田温泉地域に開墾入植し、“北原尾地区”（北のパラオとの意）と命名している。蔵王町とパラオ共和国は、このような歴史的経緯から戦後も交流をしており、今回のホストタウン登録に至った。尚、同経緯で茨城県常陸大宮市もパラオとのホストタウン登録をしており、今回の訪日でパラオ・蔵王町・常陸大宮市の3者で東京オリパラ事前合宿招致の基本合意書締結を行う。

※：パラオ共和国と本学との関係について。

本学とパラオ共和国とは、10年ほど前に介護予防事業の一環として本学教職員と学生をパラオ共和国に派遣し健康運動指導を行っており、良好な関係を築いている。

【報告：スポーツ健康科学実践機構事務室 近江康宏】

「第8回 元気！健康！フェアinとうほく」での健康運動指導

4月1日（土）、2日（日）に仙台国際センターを会場に「元気！健康！フェアinとうほく」（主催：東北大学、河北新報社、東北放送/共催：仙台大学 他）が開催され、本学から、笠原岳人准教授による「筋肉に引退なし！百歳まで歩くための筋肉づくり」と題した講演に、齋藤まり新助手が「元気体操の楽しみ方」の実演指導に、それぞれ講師として参加しました。

同フェアは、東北大学を中心とした講師陣が最新・最先端の健康情報について幅広い視点で地域住民に紹介する目的で実施されており、今年で9回目の実施となりました。仙台市営地下鉄東西線が開業し会場へのアクセスの利便性が向上したこともあり、昨年度から更に来場者が増え今年も来場者記録を更新し過去最高の9,000名と多くの方々が来場されたようです。講演終了後に参加者とお話をする中で、同フェアのような有識者が一堂に会するイベントを地域の皆さんはとても楽しみにしていると感じました。本学としても、多くの地域住民が積極的に健康づくりに取り組んでいただけるよう、継続し協力していきたいです。



参加者と楽しく元気体操を行う齋藤新助手

【報告：新助手 齋藤まり】

開学50周年記念その①

イタリア柔道教育協会AISEが来訪 ～被災地からの御礼を込めて～



4月17日～19日にかけて、イタリア教育協会AISE（以下AISE）に通うイタリアの柔道チームが本学へ初来訪しました。AISEと仙台大学柔道部のつながりは東日本大震災以降6年に亘ります。

東日本大震災で甚大な被害を受けたことに心を痛めたAISEのチェザーレ・バリオーリ氏が、被災地の未来ある柔道家を励ますためイタリアへ招きたいと女子柔道五輪2連覇の谷本歩実さんを通じ連絡があり、かねてより谷本氏と交流のある本学女子柔道部の南條和恵監督にお話を頂いたのを機に、本学の柔道部学生が無償でAISEの約2週間の合宿へと招待を受けてきました。バリオーリ氏は震災の翌年急逝されましたが、嘉納治五郎先生の「自他共栄」の教えをイタリアで実践してきた氏の遺志を、奥様のイヴァーナさんが受け継ぐ形で合宿の機会を毎年継続され現在に至ります。

今回初めて本学を訪れたイヴァーナさんは「若い世代の柔道を通じた交流を行うため来日しました。仙台大学に来ることができてとても嬉しいです。南條充寿監督と和恵監督から技をかける際のエネルギーの使い方を丁寧に教えていただき、今後の指導の上でとても参考になりました。」と話されました。



南條和恵監督から贈られた黒帯には「伊花」の刺繍（左がイヴァーナさん）

南條和恵監督は「柔道を通じた恩返しが出来て嬉しいです。AISEの皆さんの全力で吸収しようとする素直な姿勢、立ち振る舞いに感心しました。教育の行き届いた素晴らしい柔道家たちです。本学の学生たちも日本の柔道家として「誇り」を持ち日々謙虚な姿勢で取り組むことの大切さを改めて学んでほしいと思います」と話し、リオ五輪全日本女子柔道監督を務めた南條充寿監督は「彼らの柔道に敬意をもち学ぶ

姿勢は、強化のために効率を求める日本柔道が忘れてはいけない講道館柔道の本質を改めて見直す機会となりました。」と話します。この2泊3日のすべての行程には、AISEの研修へ平成25年度に参加し、その後も自費でAISEの合宿に参加している卒業生の大枝郁美さん（榊千葉薬品所属）も仕事の休みを取って駆けつけ「AISEの皆さんと大学で再会出来たことはとても嬉しいです。現役続行をしようと思えたのはAISEでの研修の経験が大きく、今後はイタリアで柔道を教える立場として関わられるように研鑽を積みしたいと思います。」と今後の目指す道について熱く話してくれました。

2日目の午後には関東地区を視察し、被災地を訪れたAISEのAndorlini Tommasoさん（大学2年）は「一つの側面から見ると、とても悲しく痛む大災害ではあります。皆で助け合いながら新しく良い方向に進化していると感じました」と実際に観た被災地の様子を言葉を選びながら話し、被災地域へ寄り添う気持ちが伝わりました。

2泊3日の短い期間でしたが、早朝トレーニングから、仙台大学柔道塾の子どもたちと共に、夜遅くまで稽古するなど内容の濃い充実した合宿となったようです。



一行は名取市岡上沿岸地区と仙台空港の現在を視察



（写真上）2011年にAISEでお世話になった勅使瓦蔵さん（現在JICA勤務）のお母様から「お守りと折鶴」が贈られた

（写真下）仙台大学柔道塾ではイタリア語で1（uno, ウーノ）2（due, ドゥーエ）3（tre, トレ）と声を掛けあい稽古

小野寺那央選手がヴォスクオーレ仙台(Fリーグ)とプロ契約を締結

本学のフットサル部に所属する小野寺那央選手（おのでら・なお 体育学部体育学科4年ー岩手・盛岡中央高校出身）がFリーグのヴォスクオーレ仙台と本契約を締結しました。今シーズンは本学に在籍しながらFリーグのプロ選手として試合に出場することになります。

4月24日（月）にはヴォスクオーレ仙台の坂本理（さとる）社長と共に阿部芳吉学長を表敬訪問。小野寺選手は「プロ選手になれば、これまで以上にたくさんの人から応援していただけたと思うので、一生懸命に取り組んでいきたい。現在はチームの戦術を身に付けることに苦労しているが、少しでも早くチームのために活躍したい。」と今後の抱負を力強く語ってくれました。

小野寺選手は2年生の時からFリーグでの活躍を目標にして日々のトレーニングに励んできたそうで、その努力が結実し今回の契約に至りました。坂本社長からも「2020年に開催されるフットサルW杯の日本代表候補となり得る人材。」と期待を寄せられており、今後の小野寺選手の活躍から目が離せません。



阿部学長にプロ契約を報告する小野寺選手（中央）
左はヴォスクオーレ坂本社長

野外教育指導者育成プログラム 文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP）開講式

平成29年度より、仙台大学では「野外教育指導者育成プログラム」をスタートさせました。このプログラムは、大学等において社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力プログラム（Brush up Program）」と文部科学大臣が認定する制度を利用したものです。社会人等を対象とし、大学の教育・研究資源を活かして編成されたプログラムにより体系的な知識・技術等の習得を目指す制度です。プログラム修了者には、大学から学校教育法の規定に基づく「履修証明書」が交付されることになっています。

4月18日（火）の夕刻には2名の受講者とともに開講式を行い、早速一回目の科目が開講されました。開講式では朴澤泰治理事長・学事顧問、阿部芳吉学長から激励の言葉をいただき、プログラムコーディネーターの飯田稔上級研究アドバイザーより安全管理ができエキサイティングを提供できる指導者になってもらいたいとの期待が投げかけられました。参加者の伊勢裕介さん（本学職員）に抱負を伺ったところ、「朴澤泰治理事長・学事顧問をはじめとする大学の皆様のご理解があって、今回のプログラムに参加することができました。本当にありがとうございます。今回の「野外教育指導者育成プログラム」では、野外教育について一から学ぶことにより、自分の今後のキャリアアップにつながるとしています。無事に修了し、皆様に成長した姿を見せられるように全力で頑張ります。」という力強いコメントもらいました。また、叶敬偉さん（本学大学院生）は、開講式後の科目を受講した感想として、「現代社会では、自然体験に接触する機会が少なくなっている。中国においても野外教育はあまり普及していない。しかし、挑戦を通して青少年の生きる力や人間力を養成する野外教育は、非常に重要であることが理解できた。これから野外教育プログラムなど、様々なことを学んでいきたい」と話してくれました。

4月から本格的にスタートした当プログラムは、5月～7月にかけては学内での講義を通して理論を理解する。同時に、週末を利用して自然の家などの野外教育施設などで実地研修を行い、実技技能を習得していく。8月は長期インターンを行い、実際に野外教育の指導現場に立ち会い、実戦経験を積むことになっています。



受講生の叶さん（中央）、伊勢さん（左から4人目）

【報告：講師 岡田成弘】

運動栄養サポーター認定証授与式

4月24日（月）第4回運動栄養サポーター授与式を開催致しました。運動栄養サポーターは3年前から本学の運動栄養学科学生対象に設けられた学内認定資格です。運動栄養サポーターは運動・スポーツの現場及び教育の現場（小学校・中学校・高校など）健康づくりの現場（子ども、高齢者など）において、運動・スポーツを行う人に対し栄養指導ができる人材を育成する目的があり、階級は基礎、初級、中級、上級の4つに分かれています。

今回の授与式では基礎6名、初級20名、中級9名、上級5名に対して認定証書が授与されました。今回の認定では初の運動栄養サポーター上級資格取得者が誕生しました。上級資格を認定された長谷川彩さん

（4年）は、「上級取得課程の中で下の学年に栄養サポートに必要な知識や技能を教える機会がありました。今まではそのような活動がなかったため、よい経験になりました。また、基礎から上級まで取得していく中で栄養サポートの知識を身に付けることができましたと思います。今後の栄養サポート活動や、将来栄養士として働くときに身に付けたスキルを活かしていきたいと思います。」等の感想を述べました。また、中級を認定された鈴木千夏さん（3年）は、「運動栄養サポート研究会の活動を通して、中級を取得することが出来ました。勉強する課程の中で、自分で考え、栄養指導をするなどの力がついたと感じています。次は上級の取得を目指してこれからのサポート活動に生かしていきたいです。」と話しました。

運動栄養サポーター取得者こはれまでで延べ38名となりました。これまで、このサポーター資格は研究会に所属していない学生にはあまり浸透していなかったため、今年度からは学科全体に広められるよう、運動栄養サポーター取得カリキュラムの一部を1年生の授業に組み込みました。授業の中で運動栄養サポーター及び、運動栄養サポート研究会に興味を持ってもらい、よりサポーター資格の取得者が増えるよう工夫をしていきたいと思っています。

【報告：運動栄養学



認定証を授与された学生

第11回仙台大学体育施設管理士認定証授与式を開催

4月20日（木）、A棟2階大会議室において第11回仙台大学体育施設管理士認定証授与式が行われ、昨年度2月に合格した23名のうち授与式に出席した8名に阿部芳吉学長から認定証を一人一人に手渡されました。

授与式で阿部芳吉学長は「2020年オリンピック・パラリンピックの開催に向けてクローズアップされている資格だと思います。この資格を持った先輩たちも多くのスポーツ施設で働いています。資格を有効活用しながらさらに知識に磨きをかけてほしいと思います。」と話されました。

体育施設管理士は体育施設の維持管理、運営に必要な知識・技能を認定する資格で、資格に必要な科目を本学において習得し、公益財団法人日本体育施設協会による資格認定試験に合格した者に「体育施設管理士」の資格が付与されます。本学は同協会の体育施設管理士認定校になって今年度で12年目となります。累計482名の有資格者を養成し、授業を通して資格認定者の養成教育を継続しています。



認定証を授与された学生

鈴木省三統括副学長が仙台東ロータリークラブで講演 ～アンチエイジング戦略～



アンチエイジングについて講演を行う鈴木統括副学長

4月17日（月）、仙台東ロータリークラブの招きにより、鈴木省三統括副学長はホテルメトロポリタン仙台にて「アンチエイジング戦略」と題した講演を行い、約40名もの会員の方々が熱心に耳を傾けました。
＜ロータリークラブの歴史＞

ロータリークラブは1905年に米国シカゴで、信頼できる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたいという趣旨で青年弁護士ポール・ハリス氏を中心に有志で誕生し、現在では会員総数1,227,217人（2016年11月30日公式発表）に達しています。

日本では、1920年に東京ロータリークラブが創立し、翌年世界で855番目のクラブとして国際ロータリーに加盟が承認されました。現時点での日本全体クラブ数は2,264、会員数89,335人（2017年1月末現在）と、国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになっています。

仙台東ロータリークラブは1963年に創立し、現在60名弱の会員が毎週月曜日に例会を開き、奉仕・国際理解・親善・平和を推進するというロータリーの目的に添って活動しています。平成29年2月に阿部芳吉学長が行った「いじめについて考える」という講演が好評をえ、このたび、統括副学長である鈴木省三教授に「アンチエイジング戦略」というタイトルでの講演依頼がありました。

＜最も着目すべきは栄養＞

最初に鈴木統括副学長は「運動・栄養・休養」の3つが生きるための根幹であり、日本人はこのなかで「食べたい」「休みたい」という欲求の高い民族であることを話されました。“疲れにくく病気をせず、太らず若々しくしかも脳がクリアに機能する人生を手に入れられる”～という目標に向かってすべきことは、①現状の把握：現在の生活習慣の問題点と改善点を書きだす。②次に半年後の未来：問題点を改善し、どのような人生を歩みたいのか？を考える。③その後、ギャップを埋める方法：現実と理想のギャップを埋める方法と行動を明確にする。～などを実行することに

より④7年後の未来には：疲れにくく病気をせず、太らず若々しくしかも脳がいつまでもクリアに機能する豊かな人生を堪能できる～そうです。

＜筋肉は命＞

「筋肉」はアンチエイジングの命であり、20歳をピークに筋力が低下していくなかで「貯筋」を心がけることが大切だそうです。日本人の平均寿命（男性80歳、女性88歳）が世界第2位なのは喜ばしいですが、実は、いわゆる寝たきり期間が10年もあるそうです。老化を早める食習慣は①白米をたくさん食べる②朝食を抜く③夜9時過ぎに炭水化物をとることなどで、体を酸化・糖化させないためにマーガリンやショートケーキといったトランス脂肪酸、焦げたもの、加工食品を食べないこと。また、体が温かいとガン寄せ付けないため、36.5度の体温を保ちニンニクやキャベツ、ブロッコリーを積極的に摂るのがポイントとのことでした。アルコール類で言えば日本酒よりも血糖を上げない焼酎、ワイン、ウイスキーといった蒸溜するものが望ましいそうです。

＜デトックス＞

鈴木統括副学長は、アンチエイジングにとって大切なのは体内にとりこむことだけではなく、毒素を体外に出すことで①水分補給②便として出す③アボガド、こんにゃく、ごぼうをとり、野菜中心の食事に改善する、油は加熱せず良質なココナッツオイルなどを取り入れる～にも触れました。

聴講していた仙台東ロータリークラブ会員の年齢層が50代～80代と、まさにアンチエイジングに最も興味のある世代だけに、寝たきりになったら大変と皆さん真剣にスクリーンへ映し出された資料を見つめ、ところどころメモを取りながら聞きっていました。同クラブの委員長で、ほこだて仏光堂の代表取締役である銚建祐治氏は「僕は今ちょうど50才ですが、57才になった時、果たして今よりもっと健康で仕事をばりばりできるのか？深く考えさせられました。鈴木先生のお話はとても具体的で、今すぐ何を止め何を始めればよいのが明確です。今晚帰宅したら家内とじっくりアンチエイジングについて向きあうことからスタートしてみます。今日は本当にありがとうございました。」とおっしゃっていました。

30分という限られた時間のなかで、今回は「栄養」に特化した講演となりましたが、スポーツを科学する大学らしいアカデミックなお話の反響は大きく、翌日には参加していた方より、「早速、孫を起こしてラジオ体操をし、我が家ではポテトチップスを厳禁に。日本酒を止めてワインをたしなむなどアンチエイジング目指し、鈴木先生に教えていただいたことを実践しはじめました」というお礼の言葉が寄せられました。

仙台六大学野球リーグ戦初優勝の表彰盾 36年の時を経て本学に戻る

4月21日（金）に石巻市在住の鈴木正勝さんご夫妻が本学を訪れ、昭和55年に仙台六大学野球秋季リーグ戦にて本学が初優勝した際の優勝盾を阿部学長に手渡しました。

今回本学に手渡された表彰盾は、初優勝当時の野球部員が家族などへ報告するために各家庭に持ち回りされていたそうで、最終的に正勝さんのご子息で本学12回生である故鈴木幸雄さんがご自宅で保管されていたということです。

幸雄さんは東日本大震災で発生した津波の犠牲となり、石巻市渡波地区にあったご自宅も津波で大きな被害を受けたものの、幸雄さんの部屋にあった表彰盾だけは無事であったのだそうです。

正勝さんは「いつか仙台大学にお返ししようと考えていました。震災から6年が経ちましたが、ようやく返すことができ安心しました。」とほっとした表情を浮かべていました。

優勝盾をお持ちいただいた際には、硬式野球部の高橋義夫部長、森本吉謙監督、総監督である安部俊三氏、OB会長の八巻芳信氏も同席し、幸雄さんの大学時代や社会人での活躍の様子、下宿先でのエピソードなどたくさんの思い出話に花が咲いていました。

昭和55年のリーグ戦初優勝は硬式野球部の創部からは12年目の悲願達成だったといえます。先輩方のご苦勞がたくさん詰まった大変貴重な優勝盾は36年の時を経て本学に戻ってきたことになり、現役の部員たちにも大きな力を与えてくれることでしょう。



優勝盾をお持ちいただいた鈴木ご夫妻（右から2人目と3人目）

「新入留学生歓迎お花見会」を開催

4月19日（水）に留学生歓迎お花見パーティーが行われました。当日は、晴れていたもののJRが運休するほどの強風のため急きょ学食で開催することになりました。留学生をはじめ、教職員、ボランティア学生等、総勢60名で昨年よりも20名ほど多くの参加者が集い、賑やかな雰囲気となりました。

朴澤泰治理事長・学事顧問のあいさつから始まり、乾杯の後には早速、留学生たちは各々のテーブルで会話を弾ませていました。語学支援ボランティアの学生たちも積極的に留学生と会話をし、コミュニケーションをとっている姿が見受けられました。

会の中では台湾、中国、韓国、ベトナム、フィンランドの留学生たちから、一人ずつ自己紹介がおこなわれ、日本での抱負を語ってもらいました。留学生からは、日本語を上手に話せるようになりたいという強い気持ちが伝わってきました。

桜の花を見ることができなかったのは残念でしたが、留学生たちがのエネルギーにあふれた歌やダンスを披露してくれたことで、会場は大変盛り上がりしていました。

この会によって異文化とふれあい、学生にとってお互いにより経験になったと思います。新年度が始まったばかりですが、これからの大学生活でこの日をきっかけに、留学生との交流や関わりもますます増えていくことでしょう。

<留学生からのコメント>

「全部楽しかった。その中でもダンスが一番面白かった。」（中国人留学生）

「歌が素晴らしかった。みんな上手だった。」（台湾人留学生）

【報告：学生支援室 大久保成実】



香港代表野球チームにAT部トレーナーが帯同 ～香港代表チームの監督は本学卒業生の色川冬馬さん～



香港代表野球チームとともに

3月24日から3月28日にかけて香港代表野球チームが、宮城県の野球チームとの交流大会「深松インターナショナルベースボールカップ2017」に参加するために来日しました。その香港代表チームを率いる監督の色川冬馬さん（仙台大学卒）からのご依頼で、本学アスレティックトレーニング部（以下、AT部）の学生7名が、それぞれの試合にトレーナーとして帯同しました。

香港代表野球チームは、現在、世界ランクが26位（アジア6位）であり、25歳以下の選手が大半を占めるというとても若いチームです。メディカルスタッフがない環境の中で日々厳しい練習に取り組んでいるためか、皆それぞれ何かしらの痛みを抱えながらプレーしているようで、帯同初日から多くの選手達が学生トレーナー達のもとに怪我の相談にきていました。学生トレーナー達はそれぞれ慣れない英語でのコミュニケーションに苦労しながらも、一生懸命にストレッチやテーピング、そして障害予防のアドバイスをすることでチームに貢献していました。

今回すべての試合に帯同した齋藤翔太さん（体育学科2年）は「英語でのコミュニケーションの中で上手いかない部分もありましたが、どうしたら選手の言いたい事を理解して、自分の伝えたい事を伝えられるのかを考えながら活動ができました。選手としっかり向き合って、コミュニケーションを十分に取る事が、選手の問題解決への第一歩だとあらためて実感しました。」と感想を述べました。

また、監督の色川さんからは、「仙台大学AT部が一丸となり、怪我をした選手の応急処置から、慢性的な肘や肩の痛みのケア、そしてアドバイスを選手達にさせていただいたおかげで、今回無事に戦い抜く

ことができました。香港野球代表団には普段アスレティックトレーナーがいませんので、大変勉強になったと選手達からも聞いております。香港代表団を代表しまして、改めて御礼申し上げます。」と感謝の言葉をいただきました。

今回海外の代表チームでトレーナー活動をするという大変貴重な経験を通して、学生達はアスレティックトレーナーとしての新たな視点を得るとともに、言語、特に英語力の重要性を強く感じたようです。東京オリンピックを3年後に控え、国内だけでなく、海外のアスリートにも自信を持って対応できるようなアスレティックトレーナーを目指し、今後の活動にもさらに意欲的に取り組んでいく決意を新たにしていました。

【報告：新助手 内野洋材】



香港代表選手への須取れex種テーピングを施すAT部の学生

平成29年度 親睦会歓送迎会が開催されました

4月21日（金）17時30分より、ホテル原田inさくらにおいて、本学の教職員親睦会幹事会主催の歓送迎会が行われました。

本会には朴澤泰治 理事長・学事顧問をはじめとするご来賓の皆さまにご臨席を賜り、阿部芳吉 学長をはじめ、多くの親睦会会員の皆さまにご出席いただきました。

今年度より新任として親睦会にご入会された18名の皆さまをお囲みし、限られた時間の中ではございましたが、参加者お一人おひとりが参加された皆さまとの親睦を深められました。

会の中盤では、新入会員の皆さまより、お一人一言ずつご挨拶を頂戴するお時間も設けられ、本学に着任されるまでの経緯や今後の抱負について語っていただきました。

今回は残念ながらご多用のため前年度末にて親睦会をご退会された12名の皆さまにはご出席賜ることはできませんでしたが、ご退会された皆さまの新天地でのご活躍を心よりお祈りしております。

参加者は140名となり、終始和やかな雰囲気で開催となりました。



開会の挨拶をする阿部学長

【報告：平成29年度親睦会幹事】

仙台大学開学50周年記念③「第3回プラゾり大会」開催のお知らせ

5月27日（土）に柴田町内にある「太陽の村」を会場として「第3回プラゾり大会」が本学開学50周年記念イベントの一環として開催されます。

この大会は、ボブスレー・リュージュ・スケルトン等のそり競技の楽しさやそり競技を行っている仙台大学について、年代や性別を問わず多くの人に認知してもらうことや、大会参加を通じた親子間の交流、自然の中で遊ぶことの楽しさを知ってもらうことなどを目的に、本学のボブスレー・リュージュ・スケルトン部が中心となって開催しています。

大会では25メートルの特設コースをプラスチックのそりで滑り、タイムを競うというものです。1人乗りの部、2人（親子）の部があり親子でも参加することができます。

お申込みはEメール（purazori0527@gmail.com）で必要事項（氏名、年齢、電話番号、参加部門）をお送りください。

【担当：B・L・S部コーチ 進藤亮祐】



昨年の様子

「第27回国際ハーフマラソン大会」に仙台大学同窓会が協賛します

5月14日（日）に仙台市内をコースとして開催される「第27回仙台国際ハーフマラソン大会」に、仙台大学同窓会が協賛しています。

本大会には毎年多くの大学関係者、卒業生が参加しています。今年は特に開学50周年の記念すべき年であることから「仙台の街を仙台大学グリーンで染めよう」をキャッチフレーズに、大会に出場する同窓生や本学関係者へのオリジナルのTシャツ配布、コース沿道で応援してもらうためののぼりや横断幕の作成などを行い、仙台大学の50周年を関係者一同でお祝いしようと考えております。

大会当日は仙台大学同窓会ブースも設置され、本学のPRやアスレティック・トレーナー部によるテーピングなども行われる予定になっています。ご都合のつく方は是非ご声援をお願いします。

仙台空港リニューアルに伴い広告看板が再掲出されました

仙台国際空港が4月20日にリニューアルオープンしたことに伴い、工事期間中一時的に撤去されていた本学の広告看板が再度お目見えしました。

新たに設けられたカフェにより動線が変わり、従来よりも空港利用者の目に留まりやすくなっています。仙台空港をご利用の際には是非ご覧ください。

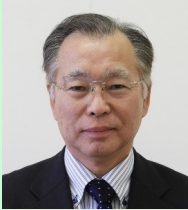


国内線1階にある本学の広告看板

平成29年度 新任者紹介

教員 7名 事務職員8名 新助手4名 臨時職員7名 計33名のみなさんが着任されました

教員

ささき てつお 佐々木 鉄男 教授 (スポーツマネジメント) 	前職の仙台放送では、アナウンス（5年）、報道（ロサンゼルス特派員含め20年）、編成・業務（3年）、広報（10年半）等を担当しました。学生の皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。よろしくお願いします。	あらまき あい 荒牧 亜衣 講師 (スポーツ社会学) 	スポーツ社会学とバレーボールを中心に授業を担当させていただきます。オリンピックを主な研究対象として、最近はミュージアム、聖火、東洋の魔女をキーワードに教育、研究活動に取り組んでいます。
ちば きくや 千葉 喜久也 教授 (福祉行財政等) 	8年ぶりの仙台になります。体育系の学生と一緒に福祉を学ぶ喜びと、こうした機会を与えていただいた仙台大学に感謝の心を持って頑張ります。「角館の桜もええけど、柴田の桜もえがったナァ」	たなか まさたか 田中 政孝 特別任用講師 (応用武道等) 	一昨年から非常勤講師としてお世話になっておりましたが、今年度から講師として教壇に立たせていただくことになり、責任とやりがいを感じております。学生諸君により多くの知識・技能を伝えられるよう努力いたしますので、よろしくお願いいたします。
いけだ あつし 池田 敦司 准教授・IRオフィサー (スポーツ産業論) 	これまで楽天イーグルス、ヴィッセル神戸とプロスポーツ業界に12年間おりました。プロ野球、プロサッカーの両方で経営に携わった希少な経験やノウハウを皆さんにも伝えていければと思っています。	かんの けいこ 菅野 恵子 助教 (バスケットボール) 	助教として、気を引き締めて日々頑張っていきたいと思っています。女子バスケットボール部の監督としても、精進していきたいと思います。よろしくお願いいたします。
しのはら まゆみ 篠原 真弓 准教授 (高齢者介護等) 	仙台大学の皆様こんにちは。篠原真弓と申します。老年看護学を教えていました。学生の皆さんと一緒に高齢者や認知症の方、難病の方、ならびにそのご家族の支援を考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。		

事務職員

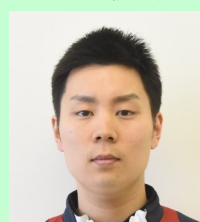
せきば たかお 関場 孝夫 さん (事業戦略室担当課長) 	このたび事業戦略室に配属されました。39年間の柴田町役場での行政経験を活かし、世界に飛躍する大学生、大学運営の一助になれるように頑張っていきたいと思っています。町内に住んでおりますので街の中の身近なことについて、疑問が生じたらぜひ声を掛けてください。	マイケル・マンキンさん (事業戦略室担当課長 兼英語教育アドバイザー) 	今年度より、事業戦略室、英語教育アドミニストレーターとしてお世話になりますマイケル・マンキンです。アメリカ、シアトルから来て19年になります。柴田町教育委員会、角田市教育委員会、小、中学校で(英語)外国語指導助手をしていました。スポーツが好きな私ですが、Sports For Allをモットーにしている仙台大学の発展に貢献できるよう頑張ります。皆様どうぞよろしくお願いいたします。
---	--	---	---

いしばし まさひろ 石橋 雅弘 さん (総務室長) 	総務室長のブリジストン石橋です。 早く皆様の顔と名前を一致させ、総務業務において仙台大学の運営等に貢献していきたいと思います。 どうぞ、よろしくお願い致します。(また、お声掛け頂ければ幸いです。)	みつなり さや 光成 沙耶 さん (予算管理室) 	今年度より、予算管理室で働かせて頂くことになりました光成沙耶です。地元の大学である、仙台大学の発展に貢献できる職員になれるよう、一生懸命頑張っていきたいと思ひます。ご指導の程宜しくお願い致します。
いき しげる 壹岐 茂 さん (学生生活室) 	38年前に仙台大学を卒業して公職に就き、その仕事を無事終えて、また母校の大学に戻って来るとは夢にも思わなかったのが本音です。 前職とは全く職種が違ひますが、母校で仕事が出来ることのうれしさをバネに一生懸命頑張る所存でいますので、皆様どうぞご指導の程よろしくお願い致します。	いけだ たけゆき 池田 武幸 さん (営繕管理室) 	2月7日付で労務職員として勤務させて頂きます。池田武幸です。 仙台大学に貢献できるように努めてまいりますので、よろしくお願い致します。
ふかや けい 深谷 螢位 さん (学生生活室) 	今年度から学生生活室でお世話になります深谷螢位と申します。 多くの学生さんに関わる所なので、1日でも早く仕事を覚え、スムーズに対応できるよう頑張ります。 また、母校である仙台大学に貢献できるよう努めてまいりますので宜しくお願い致します。	やまき よしひろ 八巻 良宏 さん (営繕管理室) 	今年から営繕管理室 労務職員としてお世話になります八巻良宏です。 主に、第2グラウンドのラグビー場(芝生管理)をさせて頂くことになりました。 不慣れではありますが、ご迷惑をかけないよう頑張りますのでご指導のほどよろしくお願い致します。

新助手

あさの かつなり 浅野 勝成 さん (トレーニングセンター) 	今年度より新助手としてお世話になります。主な職務内容は姉妹校の明成高校でストレングス&コンディショニング(S&C)の普及と指導です。高大連携事業に貢献できるよう努めますので、宜しくお願い申し上げます。	とみざわ ゆうた 冨澤 祐太 さん (体操競技) 	今年度より新助手としてお世話になります。冨澤祐太です。 体操競技部の強化はもちろん、大学職員として貢献できるよう、日々努力してまいります。 よろしくお願い致します。
えんどう こうき 遠藤 皓樹 さん (A T ルーム) 	今年度より新助手として働かせて頂きます、遠藤皓樹です。初心を忘れず、常に向上心を持ち仕事に取り組んでいきたいと思ひます。ご指導の程、よろしくお願い致します。	すがわら まり 菅原 麻莉 さん (運動栄養学科) 	昨年度大学を卒業し、今年度より運動栄養学科の新助手となりました菅原麻莉です。 仙台大学の職員として貢献できるよう、日々努力をして参りますので今後ご指導のほどよろしくお願いいたします。

臨時職員

そぶ みちこ 蘇武 迪子 さん (学生相談室) 	今年度より、学生相談室にてインターカーを勤めさせていただくことになりました。学生の皆さんがより良い学生生活を送られるよう、少しでもお役に立てればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。	はしもと だいすけ 橋本 太輔 さん (学生支援センター) 	今年度より学生支援室で働かせていただくことになりました橋本太輔と申します。仙台大学の発展に貢献できるよう、日々精進し全力で業務に励んでいきたいと思いますのでご指導の程よろしくおねがい申し上げます。
いわやま りょうへい 岩山 良平 さん (機構事務室) 	今年度よりスポーツ健康科学研究実践機構で臨時職員として勤めさせて頂くことになりました岩山良平です。実践機構の仕事は初めてのためご迷惑をお掛けしてしまうと思いますが元気に明るく精一杯努めていきたいと思いますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。	おおくぼ なるみ 大久保 成実 さん (学生支援センター) 	今年度から、学生支援室で臨時職員として勤務させていただくことになりました。大久保成実です。仙台大学の学生たちが、より良い大学生活を送ることができるよう、精一杯サポートしていきたいと思います。ご指導の程、よろしくお願いいたします。
すずき たかゆき 鈴木 貴之 さん (学生支援センター) 	今年度より臨時職員として学生支援室で働かせていただく鈴木貴之です。仙台大学に貢献できるよう元気に全力で頑張っていきたいと思います。ご指導のほどよろしくお願いいたします。	はやし よしのり 林 佳宜 さん (学生支援センター) 	今年度よりトレーニングセンターで勤務させていただいている林佳宜です。学生インターンの経験を活かし、トレーニングセンターの管理運営を行っていきます。ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。
こばやし ひろき 小林 弘樹さん (学生支援センター) 	本年度より、学生支援室の臨時職員として働くことになりました小林弘樹です。学生が毎日充実した大学生活を送れるように全力でサポートしていきたいと思います。ご指導のほどよろしくお願いいたします。		